

**奨学金基金&寄付金
企業の皆様**
ANDO CHIROPRACTIC, LLC
AMAZON.COM, INC.

**奨学金基金&寄付金
個人の皆様**
MR. TORRE, MICHAEL
HIMAWARI CLASS 2016 GRADUATE
MR. NISHINO, ATSUSHI
MR. ARIMA, KAZUSHIGE

学園グッズ&カレンダー
MR. FUJIKAWA, RYOICHI
MS. IKEGAMI, SACHIKO
MS. ISHIBE, NAOKO & MR.SIMONDS, L DANIEL
MR. KAMIMURA, KUNIYAKI
MR. KISHIDA, KUNIHIRO
MS. NISHINO, MIZUHO
MR. TAKANO, KAZUMA
MS. WEINGARTZ, NAOKO

1/6/2017~4/4/2017

～皆様のご支援に
心より感謝申し上げます～

全てのご寄付は米国での
税控除の対象となります。
All contribution is tax deductible.
501(c)(3)organization

本学園ホームページ
JAPANESE SCHOOL.ORG から
PayPal をご利用できます。

お問い合わせ／ファンドレイジング担当：半場 綾子

りんごラーニングセンターの語学プログラム

りんごラーニングセンター語学部門では、NY 育英学園の語学学校として 2009 年度に開校して以来、子どもから大人まで、様々なニーズに合った、多様な英語および日本語のクラスを開講してまいりました。ご希望のクラスがない場合でも、まずはお気軽にご相談下さい。

アメリカに来て間もない子ども達に	日本に帰る前に
●10 回集中 ESL クラス：小学生対象 初級コース：月曜 3:30-5:00 (90 分) 中級コース：金曜 3:30-5:00 (90 分) 【料金】10 回：\$500 *\$50/回 ●プライベート・チュータリング：小～高 ●りんご英語サマーディキャンプ：7～8 月	●プライベート・チュータリング：小～高 ●英検対策講座（1・2 次）：小～高 ●いろはにほんご教室：小～高

子どもは英語の環境に浸かっていればすぐに日常英会話なんてできるようになる、と言うのは必ずしも正しいとは限りません。子どもによっては、英語が分からないために、学校に行くのが嫌になり、英語を拒否してしまう子もいます。現地校の ESL も大抵年齢やレベルの違う子どもたちの混ざったクラスであることが多く、自分にあった内容の勉強ができずに、先生や友だちが何をやっているのか分からないまま、毎日を過ごしてしまっている子どもたちがたくさんいます。少しでも早く現地校での生活に慣れ、楽しい学校生活が送れるように、様々なプログラムを用意し、サポートいたします。

バイリンガルになるために

- プライベート・チュータリング：小～高
- スタディールーム：小～高（火・木・土）
- りんご英語サマーディキャンプ：7～8 月
- 英検対策講座（1・2 次）：小～高
- サタデー英語補習教室：小学生
- 幼児英語教室：年中・年長（金・土）
- いろはにほんご教室：小～高

日本人学校あるいは現地校でアメリカでの生活に慣れてきた子ども達が、より英語力に磨きかけたい場合、あるいは難しくなる現地校の英語の宿題やテスト対策をプライベートあるいはグループで行いたい場合、りんごラーニングセンターの各種講座が役に立ちます。

お問い合わせ先

場 所：2460 Lemoine Ave., Fort Lee, NJ 07024
電 話：(201)947-4707
E-mail：ringo.nykuei@gmail.com

お問い合わせ／りんごラーニングセンター語学部門担当：中川 晴美



- ① Let’s all play *Shiritori!
② Yay!
④ Let’s do it!
- ③ All right!
⑤ JCS School Bus



- ⑥ Shiritori!
⑧ Gorira (gorilla)
⑩ Panda (panda)
⑫ The School bus is fun!
- ⑦ Ringo (apple)
⑨ Rappa (bugle)
⑪ Daiku (carpenter)



- ⑬ Everybody, we're here!
⑭ Really!?
- ⑮ Destination
⑯ Vroom



- ⑰ Mr. Driver, can you go around again?
- ⑱ What!?

NY コマタキレコ (KIREKOKOMATA)

発行：JAPANESE CHILDREN’S SOCIETY
8 WEST BAYVIEW AVENUE,
ENGLEWOOD CLIFFS, NJ 07632
HP: www.JapaneseSchool.org
☎(201)947-4832

フレンズシップ

<NJ キャンパス全日制部門のスクールバスサービス>

NY 育英学園スクールバスサービスの3つの魅力とは・・・

広範囲における送迎

NY 育英学園では9 台のスクールバスを所有し NJ キャンパス全日制部門において送迎を希望する児童・園児に対して 広範囲にわたり、Door to Door 及びポイント制での送迎を行っています。N J 運行範囲では Door to Door で、お子様をご自宅までお迎えに上がり、ご自宅まで送り届けております。小さなお子様がいいらっしゃるご家庭からは大変ご好評を頂いております。また、マンハッタン運行範囲内におきましては、ポイント制での送迎を行っています。

安全運転

運転手はいずれも経験豊かなベテラン揃い。子ども達に対しても大変フレンドリーに接していますので安心して利用することが出来ます。同乗する添乗員は、学園教職員が務めており、子ども達一人ひとりに対してきめ細やかに接していますので、小さなお子様でも安心して利用することが出来ます。また、交通状況によってバスの到着時刻が前後する場合も添乗員よりご連絡を差し上げます。

融通が利く送迎

スクールバスは送迎のみならず、遠足や社会科見学等の校外活動の際の児童・園児の移動にもふんだんに利用されています。学園所有のバスですので微妙な時程・行程にも自由に対応でき、きめの細かい内容の社会科見学を実現することが出来ます。

*** ルートについて ***

現在、ニュージャージーバスルート（Fort Lee / Englewood Cliffs / Palisades Park / Leonia / Tenafly / Cresskill / Demarest / River Edge / Paramus / Ridgewood(Maple Avenue の東側) / Edgewater / West New York(Port Imperial まで)）及びマンハッタンバスルート（東ルート、西ルート）が、随時運行されております。ニュージャージー州のスクールバス運行範囲以内はドア・ツー・ドア（Door-to-Door）でお子様を送迎しています。マンハッタンへは東側、西側の2 便を運行しています。マンハッタンの運行範囲は、東側は 1st Ave. 沿いを国連付近から、98th St. の間でポイントを設定して運行しております。2017 年2 月現在、(朝)39th St.の地点を7：30 頃出発、途中、1 0 ポイントほどポイント地点を設け、98th St を8:20 頃経由し、学園には8：45 到着となっております。マンハッタン西側便は、West End 沿いにポイントを設け、ミッドタウンから96th St.の間で運行しております。2017 年2 月現在、(朝)ミッドタウンの72nd St.の地点を8:00 頃出発、96th St を8:20 頃経由し、学園には8：45 到着となっております。

※ 詳細は本学園ホームページのトップページから「スクールバス」をご覧ください。

「軟着陸 ソフトランディングのすゝめ」① “こどもはつらいよ” 編

日本語英語のバランスを考えた基礎教育を唱える NY 育英の幼小一貫教育は、これまでも各方面から評価を受けています。現地校へ行かずとも、小学生のうちに英検2 級・準1 級に合格している在校生はこれまで多く出ています。しかし日本からいらっしゃる保護者には、「なあに子どもは放り込めばあつという間に英語を吸収してしゃべれるようになるさ。」と、現地アメリカの学校に直接入れる方が多いのも事実です。しかし、ちょっと待って下さい。昔の水泳指導の様に、やみくもに水に突き落とすような行為にはリスクがあります。成功例ばかりではないのです。現に、現地校に馴染めず、在米中ずっと ESL の教室から出られない日本人の子もいるのです。話好きの子だったのが、2～3 年お客さん状態で寡黙に過ごす辛さは親には言えません。「親には言ってもわかってもらえない。」「英語ができない為に無実の罪を被せられた・・・。」「自分のレベルよりずっと下の課題を与えられ、面白くない。」幼児部であればどのグループにも加えてもらえず、グループ間を移り歩くしかない子も多いのです。家で、「アメリカの学校はどうだ？」と聞かれても、どう返事していいかわからず口ごもる子達。「こどもはつらいよ」の部分を察して下さい。NY 育英の各学期の終わりには朝礼で日本へ帰る子、そして現地校へ転出する子が前に出てあいさつをします。学園のクロスメソッド（週 10 時間の英語教育）でネイティブの先生に慣れ、自分の英語に自信を持った子は、「アメリカの学校で頑張ってみる！」と挑戦します。私達も「君なら大丈夫、がんばって！ 困ったらいつでも相談においで。」と背中を押し送り出します。アメリカへのソフトランディングとなる訳です。幸い、学園には同じ学園舎でサタデースクール、サンデースクール、アフタースクールがあります。今までいた教室に週 1 回は通い、軸足の日本語学習は確保されているので精神的には安定させることができます。軟着陸の為、学園はニーズに合わせてプログラムを準備しています。次号で詳しく説明いたします。

ニューヨーク育英学園学園長 岡本 徹

2016 年度
NJ 全日制小学部第5 学年
年輩 1 年

～今号の目次～

P.1

- 学園長よりご挨拶
- N J キャンパス全日制部門のスクールバスサービスのお知らせ

P.2

- N J キャンパス全日制部門からのお知らせ

P.3

- 全日制英語科からのお知らせ

P.4-5

- 親子クラス特集（フレンズアカデミー・りんごラーニングセンター）

P.6

- J C S のご案内
- 2017 年度N J キャンパス全日制部門オープンハウスのお知らせ

P.8-9

- N Y 育英学園主催第3 回トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクールのご紹介

P.10

- シリーズ「教育座談会」最終回（Q&A 編②）

P.11

- サタデーPW 校よりサイエンスコンクール受賞報告
- 第4 回米国国務省との交流
- N Y 育英学園職員ペンリレーシリーズ「先輩から一言」

P.12

- N Y 育英学園ファンドレイジング報告
- りんごラーニングセンター語学部門よりお知らせ
- 4 コマ漫画（作：コマタキレコ）

Japanese Children’s Society 機関誌 Friendship Spring / 2017 1

NY育英の体力作り 運動が好き～運動の楽しさや喜びを味わう

ニューヨーク育英学園全日制部門では、年間を通して、体力作りのための様々な活動を行っています。体力は、人間の発達・成長を支え、体を動かす原動力であると同時に健康を維持する上でも必要なものです。知力や意欲・気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、日本の中央教育審議会では自ら考え問題を解決する能力や豊かな人間性ととともに、体力を「生きる力」の重要な要素として位置付けています。本学園では、幼児部から小学部低学年までは、運動が好きと感じられるように、小学校中学年までは運動を楽しく行いつつ、力いっぱい、また活発に行うことにより、体力の向上を図ります。小学校高学年からは、体力を高める運動により体力の向上を図ります。こうして学園の教育活動全体で取り組んでいます。特に、この地域の冬には、積雪や低温により屋外での活動が制限されます。そんな中でも、体力の維持向上を図る様々なカリキュラムを設定しています。

幼児部の運動

幼児期の運動は、児童期以降の運動機能の基礎を形成する上でとても重要であり、体力・運動能力の向上には、常に努めるようにしなければなりません。他にも、幼児期の運動は、社会適応力*と認知的能力**の発達にも欠かせないものです。

***社会適応力の発達**
幼児は、徐々にたくさんの友達と遊ぶことができるようになります。その中で仲間とのルール・約束事を守り、自分の主張をうまく伝えたり、友達を受け入れたりとといったコミュニケーションを取り合いながら、社会性を養うことができます。

****認知的能力の発達**
幼児期に遊び・運動をするときは、状況を判断から、身体を動かすまで脳の多くの領域を働かせます。すばやい方向転換に加え、状況判断・予測など行う全身運動は脳の運動制御機能や知的機能の発達に良いとされています。また、遊びを自分たちで新たに創り出したり、ルールを状況に応じて変えることは、豊かな創造力を育みます。

日常の自由遊びの中での運動

相撲：勝敗を決めるだけではなく、試合に挑むことで子ども達は立ち向う勇気を育み、相撲が持つ礼節により相手を思いやる気持ちや感謝の心を学びます。参加希望者でトーナメント表を作り、対戦していきます。まわりの代わりにズボンの腰のところを持つということを約束に、マットを土俵に見立てて押し合います。体を支える力が鍛えられ、多様な動きに対応しながら、バランス力や体を操作する力が向上します。

縄跳び：保育室には縄跳びを置いて、いつでも自由に取り出せるようにしています。縄跳びは、リズム感を養います。身体を使ってリズムよくジャンプを継続させない縄跳びが出来ません。このリズム感が身に付くと、縄跳びだけでなく、跳び箱やマット運動、音楽のセンス、ダンス全般など可能性が広がります。

ボール運動

冬場の限られたスペースでも可能な運動を積極的に取り入れる為、保育室を使って球技の遊びを行っています。中でも年長児は、室内ドッジボールを盛んに行い、子ども達の瞬発力や投力を養います。小学校低学年の学習内容にもあるボールゲームを幼児期から取り入れ、遊びながら体験していきます。

専科(動きマッスル、ファンファンヨガ)

専科としての運動です。年少児から年長時までの発達段階に応じて、楽しんで運動できるように保育の中で設定されています。担当教師の動きを模倣しながら、多様な動きを経験します。

日々身体が成長している幼児期の子どもにとって、運動はとても大切です。思い切り体を動かし、遊びながら運動することは、体の健全な発育を促します。神経機能が著しく発達する幼児期です。力加減のコントロールなど自分で自分の運動を調整する能力を育てることができます。また、けがや事故を防止できる力や、持久力を高めることにもつながってきます。



小学部の縄跳び活動

小学部は、縄跳び活動を学部全体で取り組む冬の体力作りの大きな柱としています。

12月の縄跳び集会では、ダブルダッチ元世界チャンピオンである本学園職員を講師に、基本的な縄の回し方、跳び方、教え方などを実演を交えて教わります。一本の短縄から繰り出される数々の華麗な跳び方に、子ども達は「自分もできるようになりたい」という意欲が湧き、冬休み中の自主練習へとつながっていきます。そして、第3学期になると本格的に縄跳び活動が始まります。



縄跳びカード

これまで毎年の見直しを受けながら受け継がれてきた伝統のカードです。子ども達は、12月から約3ヶ月間、体育の授業や朝の時間、休み時間を使って縄跳びに取り組みます。初級、中級、上級、名人とそれぞれの力に合った級と目標が設定されており、上級では「三重跳び」や、あまり聞きなれない「側振前後交差跳び」など全14項目の難易度の高い跳び方をすべて習得しなければいけません。ニューヨーク育英学園の廊下には、この時期になると、これまでの活動を記録した縄跳びカードがずらりとならぶようになります。

お問い合わせ／全日制幼児部主任：小山 由里子・全日制小学部主任：川添 太久真

育英サタデースクールPW校児童の活躍

旺文社主催 内閣府・文部科学省・環境省後援 第60回全国学芸サイエンスコンクール 環境大臣賞 (ポスター・デザイン部門) 中原 唯華さん (小学部6年)



私は、東京のホテルオークラで開かれた全国学芸サイエンスコンクールの表彰式に出席しました。会場に到着すると、受付でたくさんの人からお祝いの言葉をいただき、うれしくなりました。リハーサルの後、表彰式がいよいよ始まりました。大勢の人が見に来ていてきん張しました。特別賞の表彰の時がきて、十二人の受賞者と一緒に私もステージに上がり、自分の番を待ちました。私の名前が呼ばれ、前の大きなスクリーンに作品が映し出されました。賞状をもらうと、大きな拍手が聞こえほっとしました。表彰式後のパーティーでは、食事をしながらしんさ員の先生達や他の受賞者の人達と話が出来ました。「がんばって作ったね。」「いいアイデアだね。」と、いろいろな人から声をかけられ、ほこらしい気持ちになりました。会場には受賞作品がかざっており、すばらしい作品を見ることができました。

会場を去る時に旺文社の社長さんから、「ニューヨークからよく来てくれたね。ありがとう。」と言っいただき、来て良かったと思いました。貴重な経験ができて、また今年もがんばって良い作品を作ろうと思いました。

～先輩から一言～

ほりかわ ちさと 堀川 智里さん
1987年4月～1990年8月 ニューヨーク育英学園在籍
2013年5月 LIU Post ソーシャルワーク修士号取得
2013年8月 Womankind (旧ニューヨークアジア人女性センター) 就職

父の仕事でニュージャージーに移り住んだのは、3歳の時でした。幼稚園の3年間と、小学校1年生の一学期間をNY育英学園で過ごしました。もうずっと前のことなのですが、学園の庭で皆で遊んだこと、粘土遊びをしたこと、すいか割りやボール遊び、お遊戯会のことなど、今でも良く覚えています。また、何と言ってもNY育英学園の思い出と言えば、今は亡き小山仁美先生の笑顔が真っ先に思い浮かびます。幼稚園の3年間、仁美先生に担当して頂き、本当にのびのびと楽しく過ごせました。校庭のりんごの木から一人一個ずつりんごをもいで食べて、仁美先生のりんごにだけ虫が入っていて、「みんなのりんごじゃなくて良かったー」と笑顔でおっしゃっていたことをすごく鮮明に覚えています。

私が幼稚園から小学校に上がる時に、ちょうど学園の名前が「よい子の学園」から「NY育英学園」に変更になりました。小学校では、兄が冬に授業でスケートに行くのを羨ましく思っていて、もうすぐ自分もスケートができる！と楽しみにしていたのですが、残念ながら夏休みに帰国となってしまいました。日本に帰ってからでも、アメリカで経験したようなハロウィーンやクリスマスのきらびやかさが当時の日本にはなく、親にいつアメリカに帰るのか、といつも聞いていました。

日本に帰国して大人になってからもアメリカに対する良い思い出があり、日本で大学を卒業してしばらくしてから留学を決意しました。ソーシャルワークの大学院に入学し、卒業してから現在はWomankind(旧ニューヨークアジア人女性センター)にて、様々な暴力の被害に遭った方にカウンセリングやケースマネジメントを提供しています。

NY育英学園で過ごした期間、様々なバックグラウンドを持つ皆さんの素敵の方に囲まれ、多様性を大切にする気持ちが育てられたと思います。現在の仕事でもたくさんの同僚やクライアントに出会うので、見た目ではなく、一人ひとりと真摯に向き合って話し、理解し合うことを常に心がけています。日本から離れ、アメリカで過ごすこの期間は、どれだけ短期間であっても子どもにとって特別な意味を持つものだと思います。是非、今、学園に通う皆さんには、色々な人に出会って色々な経験をしてたくさんの事を吸収していただきたいです。



第4回 米国務省との交流 ～米国務省付属研修所によるプレゼンテーション～

NY育英学園では、米国務省付属研修所 (Foreign Service Institute) 日本語科企画のJapanese Language Immersion Trip (サバイバルスキル研修) に2014年より協力しております。この研修は、近い将来日本への赴任が予定されている米国外交官が、日本の日常会話や文化、マナーを学ぶ為のものです。あいにく今回は毎年4月の恒例であります、米国外交官のご来園が叶わなかったものの、昨年度2月には同研修所で日本語を教えている鈴木教員、今泉教員にご来園いただき、国務省の働きや外交官になるまでの経緯を小学部児童に向けてプレゼンテーションしていただきました。「金曜一日英語の日」に伴い、全編英語で行われたプレゼンテーション。研修所にて日本語を学ぶ未来の、あるいは現役の外交官の写真や研修所での授業の様子を見ながら、ユーモアを交えた鈴木教員のお話には児童は懸命に耳を傾けました。お堅い仕事のイメージが強い外交官からのビデオメッセージを見て、「外交官になる前はパティシエや警察官だった人もいるんだ」と、児童は米国務省をより身近に感じることができていました。最後は、在日米国大使館・領事館の職員が踊る今話題の「恋ダンス」を見ながら、大盛り上がりで幕を閉じました。

本学園では、他国の方々に日本について知り、たくさんのことを経験していただきたいと同時に、本学園の在籍園児児童にも、広い世界を肌で感じ、幅広い視野と見地を育むため、積極的に外部の施設や団体と交流する機会を設けています。引き続き、皆様のご理解ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

お問い合わせ／交流担当：島田 さゆみ



「育英学園がポートワシントンに出来たみたいよ。電話してみたら？」という友人からの電話が育英学園との出会いだった。以来、娘達3人が次々と幼児部に入園し、上の2人は無事に高等部を修了、三女も4月から高等部1年生である。

PW校の子ども達は元気で笑顔が多い。担任クラスのない私にも気後れせずに声をかけてくれるのが嬉しい。学校の親しみやすい雰囲気が、その元気の良さと笑顔の源になっている気がする。幼児部にいた子ども達の成長を中高等部で見るとも楽しみの一つだ。在米年数が長く、英語の方が得意な子ども達も国語の勉強に余念がない。

国語大好き人間でありながら英語も好きだった私は、大学の英文科を卒業後、アメリカの大学院で勉強を続けた。英語に囲まれた環境にいながら、気付けば国語の教員として充実した時間を過ごしている。幼児部、小学部、中学部での代教を経て2004年に小学部教員として採用されたのは、長女が小3、二女が年長の時であった。8年後に中高等部へ異動、図らずも幼児部から高等部まで全ての部を経験することになった。

我が家の娘達は、片親が「英語が母語の米国人」という環境で育ちながら現地校ではESLのクラスに通っていた。今でも私との会話、姉妹間での会話は必ず日本語だ。私一人では決して成し遂げることができなかったこの難業をサポートしてくれたのがPW校である。日本語での学習だけでなく、日本の文化を取り入れた行事なども心強い支えとなった。PW校の高等部第一期生としてお世話になった長女は、現在幼児部のアシスタントとして勤務している。

PW校の子ども達を見ながら考える。日本語は美しい言葉である。英語を勉強したからこそわかる日本語の美しさを、国語の授業を通して常々感じている。そしてその美しい言葉と文化を誇りに思う。育英学園の子ども達にも日本語の美しさ、日本の文化を十分に堪能してもらいたい。

記：サタデーPW校中学部高等部主任・国語専科／服部三香

Japanese Children's Society 機関誌 Friendship Spring / 2017

育英サタデースクール主催
バイリンガル子育て体験 講演会・座談会シリーズ
----- まとめ Q & A 編 on October 25, 2014 -----
Conference between fathers and parents about raising bilingual children
--- Questions & Answers Part 2 ---

Since 2014 IKUEI has been hosting bilingual round table discussions. This is a report of the conclusion with Q & A with participants.

2014 年度から始まった育英サタデースクール主催のバイリンガル子育て講演会・座談会。お母さん編（日本語）、お父さん編（英語）を報告させて頂きました。今回は第5回目の報告として、質疑応答を含めた座談会の様子その②を報告させて頂きます。話題提供者は引き続き英語が母語のアメリカ生まれのお父さんですので、座談会は英語で行われました。

<座談会のテーマ>

- ①「わが家が現地校とサタデースクールの組み合わせを選んだ理由
- ②「現地校とサタデースクールとの両立のため英語話者の私(父親)が心がけたこと。」

話題提供者

父親1：サタデー中学部にお子様が在籍。奥様は日本語が母語。

父親2：全日制部門小学部を卒業後、サタデースクール中学部にお子様が進学、在籍。奥様は日本語が母語。

父親3：サタデー小学部に2人のお様が在籍。奥様は日本語と英語のバイリンガル環境で育つ。

<Round table discussion>

- 1) The reason why we chose a combination of local school and Japanese Saturday school.
- 2) How I have supported my children growing up bilingual in local school and Japanese Saturday school.

Our 3 guest speakers:

Father 1: American father and Japanese mother who has their kid in Junior High School of Saturday school.

Father 2: American father and Japanese mother who has their kid in Junior High school of Saturday school. The child graduated from NY Ikuei Elementary Day School.

Father 3: American father and Japanese/English bilingual mother who has two kids in Elementary school of Saturday school.

<司会 Moderator: Mr. Kozuma>

Each father has a different approach on raising a bilingual child. The first speaker's daughter went to Saturday school and American school from the beginning. The second speaker's son came to our Elementary Day school. At 6th grade, he transferred to American school while attending our Saturday school. The third speaker's experience is almost in-between the first two speakers. He sent his daughters to our Day Preschool and then switched to American school while attending our Saturday school. Please exchange your ideas and concerns.

<Questions & Answers>:

< Question 3:>

My daughter goes to regular school and Japanese Saturday school. Her profile and situations are very similar. Did any of your children ever have to take a third language at their English school and how does that affect the Japanese?

Father 1:
My daughter started Spanish in middle school. She started in 4th grade. When she got into middle school, she had a terrible time because her teacher was dismissive but despite that she was able to learn Spanish without interfering with her English or her Japanese. Now she has a Spanish teacher who she really likes. They are getting along well. She has progressed very well in Spanish. I am sure she will be able to at least speak passible Spanish without any interference on her English or Japanese. Personally, I think any language you learn will help you as a person. It helps you understand other languages. There are so many similarities between English and Spanish. It certainly doesn't hurt. It definitely adds something to it.

Kozuma:
I agree and I think it learning both Japanese and Spanish could be especially advantageous for the child because of the similarities in pronunciation. My children sound very good pronunciation in Spanish. They get good grade in their Spanish class because of the similarities in pronouncing Spanish and Japanese words. They used to say why their classmates were having so much trouble pronouncing certain words in Spanish. For my children, pronouncing Spanish was much easier and natural.

Father 2:
My son had a choice of Spanish or Mandarin at his middle school. He took Mandarin because he was just starting kanji at the time. There are a lot of similarities with the characters and he was learning lots of words. I think it's a wonderful add on to English and Japanese and great to have the ability to take another Asian language. If you look at European kids, they all speak three or four languages. The capacity of how much they can learn is amazing. The Mandarin program he's in is not hardcore. He is not bored half the time because he already knows half the kanji and he understands it. It helps him be

more advanced. It's great to see him understand the history, culture and the Chinese view of the world. They always bring something new to the lesson and it's awesome. Learning a third language is great and could be very fun.

< Question 4:>

When my son was little we only talked about simple things but as he got older we began having more serious conversations. I focus on Japanese with my son, which is good for me because he is bilingual but I feel a little guilty for my husband. I feel from my husband's point of view that he feels left out of the conversation. Sometimes with my tone of voice, he will ask what is going on because he thinks something serious is. Do you ever feel left out of conversation or arguments with your families?

Father 1:

I don't think it's anything for you to worry about. If an argument occurred while your husband wasn't home, he wouldn't know about it anyway and you would still have to explain it to him if it was a significant thing. I think it is a positive thing for my daughter and wife to speak Japanese and they get to a level I don't understand, which only takes about a minute. Because then, if it's something important, my daughter has the additional practice of explaining to me in English of what they just discussed in Japanese. Some people can understand Japanese and they can understand English but they are not good at explaining from one language to another so I think that's actually a positive thing that she has to stop and explain it to me exactly what they were just talking about. I don't try to engage when they are talking. I wouldn't try to worry about it.

Father 2:

I just make sure I have my own arguments with my son and that he has separate arguments with his mother. We argue about different things. I understand it so it's a little different but if your husband feels left out, you should explain to him and give him a little download of what just happened and went through. Sometimes it's about something like being late for school but if it's something more substantial you can just explain it to your husband and I couldn't imagine him feeling left out in that sense but I understand your situation and how there could be frustration.

< Question 5:>

Earlier you have mentioned that watching Japanese TV shows and reading Japanese books and mangas are very beneficial to their learning and advances their understanding of the Japanese language. Where do you buy books and how much does it really help? Should I enforce more books and reading?

Father 3:

If my child can't read on her own then my wife would read the books or mangas for her. You're still listening and reading along and my wife makes sure she reads the contexts. It's like bilingual training. I think reading has helped my child a lot. I know some people don't think mangas help with their education but it really helps.

Kozuma:

There are many different genres when it comes to mangas. Some mangas are both enjoyable and educational. The best way to get them reading on their own is to get mangas that relate to your child's interests. There are even mangas about sports, like tennis and baseball.

Father 2:

My son has read many series of manga. My wife also exposes him to Japanese books so he still reads all the traditional Japanese tales and fables. She gets my son books and manga from Kinokuniya. She has even collected them on her own and always goes to those book offs. We have bookshelves full of Japanese books. My wife still reads some books to my son at night, even as a thirteen-year-old. We make sure he is exposed to everything. For bilinguals, I think speaking Japanese is the major thing. And then you learn how to read Japanese as the second level and then actually taking a piece of paper to write Japanese as a third level. Its very difficult to be truly fluent in Japanese if you don't at least start at a school like IKUEI. It really depends on your goals. If you really want your child to be fluent you have to put in the time and effort with schools. You have to accept the level of where you child is and watch them progress as they go to Saturday school. Maybe my son's Japanese has plateaued in the sixth grade level for now but his Saturday school is progressive and at some point before college he can do a study abroad program in high school for a year to get his Japanese back up to that level. I watched my daughter do it in Japanese, English and then Korean so there's different levels and it is extremely difficult to learn an Asian language. Once in high school, their Japanese plateaus and will fall behind unless you really force additional studies, but I think they can catch up really quickly once they get to college. I know people who have moved to Japan and actually conquered all three levels in about 10 years and they started from zero. It's possible and you can do it but you really have to dedicate yourself.

(For the whole series of this round table discussion, please visit at www.JapaneseSchool.org.)

<まとめ>今回の座談会の英語での質疑応答のまとめは NY 育英学園英語科教諭 Ms. Kaimei Teschner が担当しました。長時間に渡るビデオ録画からの記録起こしを根気よくおこなって頂きました。ここに記して感謝します。Teschner 教諭は本学園 NJ キャンパスにある全日制幼児部に在籍していた元園児です。日本語と英語のバイリンガルの家庭で育った経験から、このプロジェクトの担当に適任だと思い、お願いしました。特に英語を母語とする保護者（その多くがアメリカ人の父親）へメッセージを伝えたいという今回のプロジェクトの意義に共感頂き、プロジェクトのメンバーになって頂きました。

<次回予定>

次回は卒業生から在校生後輩に向けての座談会を計画しています。お楽しみに。

Contact: JCS Saturday School NJ Director/Masahiro Kozuma 上妻雅浩

New Friends Day ～ 現地校との交流会



2016 年 10 月：Grace Church School の 4 年生を招いて

交流会で生きたバイリンガル教育を!

NY 育英学園全日制では、30 年前に小学部を開設して以来、毎日の英語をカリキュラムに取り入れ、日英バイリンガル児童育成のために、アメリカ人ネイティブスピーカー講師および日本人バイリンガル講師による英語教育を重視してまいりました。

1992 年からは、カリキュラムのステップアップとして、子どもたちに英語力を試す機会を提供することと異文化理解を深めることを目的に、年に 1, 2 回近隣の現地校との交流会を行ってまいりました。過去それぞれ 5, 6 年ずつ交流が続いたのち、交流校が廃校になってしまった学校もありましたが、2009 年からは、育英サタデースクール・マンハッタン校の借用校の 1 つでもある名門私立学校のグレースチャーチスクールとの年 2 回の交流が続いています。さらに 2014 年からは、NJ キャンパスのある Englewood Cliffs, NJ の公立学校 Upper School や学園祭の借用校でもある North Cliff School との交流も始まり、より地域に根差した交流を行ってきています。

Grace Church School 姉妹校として絆を深める

グレースチャーチスクールとの交流、年に 2 回は、それぞれの学校を訪問しあう形で行っています。NY 育英学園に招待するときは、子ども達は日本文化の紹介を、グレースチャーチスクールを訪問するときは、アメリカ現地校の授業を体験するという形で毎年両校が工夫を凝らした交流会を開催してきています。また交流会の後も、ホリデーカードを送りあったりして、交流を深めています。

2017 年度は、交流を始めて 8 年目。JCS (Japanese Children's Society) と GCS (Grace Church School) と略称も似ている両校は、一層その絆を深めていこうとしています。



2017 年 2 月：GCS で guacamole 作りに挑戦

NY 育英学園全日制小学部の バイリンガル教育



日本の国技、相撲を紹介



おにぎり作りに挑戦!

Englewood Cliffs Public Schools NJ キャンパスの歴史を感じて

現在の NJ キャンパスは、その昔 South Cliff School という名のイングルウッド・クリフスの公立小学校でした。その後タウンの公立学校は Upper School と North Cliff School に統合され、しばらく現校舎は廃屋となっていました。1989 年に学校法人田中育英会の協力により現校舎に移転して以来、イングルウッド・クリフスの学校との交流は長年の夢でした。

2014 年に Upper School と、そして 2015 年には North Cliff School との交流会実現に至り、両校の児童は、互いの学校の歴史を学びあい、感動的な交流会となりました。



2016 年 6 月：North Cliff School で折り紙 workshop



2013 年 10 月：Grace Church School の 4 年生を招いて：グラウンドでジャンケンゲームと玉入れを紹介

お問い合わせ／全日制英語科主任：飯田 名生子・アドバイザー：中川 晴美

フレンズアカデミー

子育て広場「ぽっぽ」

フレンズアカデミーでは2016年10月より、月に1度、乳幼児の子育て中の親子が気軽に集い、交流できる場として、子育て広場「ぽっぽ」をオープンしました。

子育て広場「ぽっぽ」とは「一歩いっぽ、ゆっくりと子育てを楽しむ。」「子どもたちが発音しやすい言葉にしたい。」などと様々な思いを込めて命名しました。

小さなお子さんとママ・パパが、親子で楽しく遊べて、親子でお友達と出会える場所となるよう、ダンス、製作、様々なプログラムを用意して活動しています。

参加者の幅は広く、本学園保護者、その友人、マンハッタン近郊に住む子育て中のお母さんたちなど様々でした。全6回実施し、延べ60名以上の方に参加頂きました。

また、幼稚園教諭、臨床心理士（日本国内での資格）、現地校（米国）ABAアシスタントなど専門のスタッフが広場の運営を行っています。



— 参加者の声 —

- ★ 3回目の参加ということで、お友達を見つけでは自分から顔を見に行ったり、先生にも指や表情で訴えたりと以前よりも随分と会話をしようという姿が見られたように思います。実際この1ヶ月ほどで急に話せる言葉も増えてきました。この会は娘にとってもとても良い刺激になっているようです。
- ★ 娘はとても楽しかった様で、家に帰ってから作った雪だるまで寝るまでずっと遊んでいました。娘は読み聞かせやダンスなどで夢中になってしまい、席に座ってられない時も多々あり、私もその都度ヒヤヒヤしましたがスタッフの皆様のサポートのおかげで安心して過ごすことができました。本当にありがとうございました。私自身も他の参加者の方達とも交流ができて、とても有意義な時間を過ごせました。参加できて本当に良かったです。
- ★ 渡米して思うことは、公共の室内遊びの場、親子の出会いの場が少ないなということです。日本人親子と出会うまで延々探し歩いたという話も耳にします。今回そういった機会が得られて大変楽しく過ごせました。また先生が沢山いらして、一杯お声がけしてくださったり、子どもが大変喜んでおりました。
- ★ 昨年10月に日本からNYに移住してきましたが、フレンズアカデミーは、日本で通っていた子育て支援センターや保育園に似たとても温かい雰囲気、子どもも私も、とてもリラックスして参加することができました。先生方のご指導が素晴らしかったです。ありがとうございました。

アート作文コンクール ～『ありがとう』と言いたい～



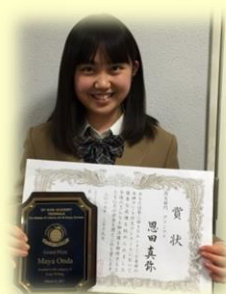
展示会

NY日系人会および在NY日本国総領事館広報センターギャラリーで開催した一か月以上に渡る展示会には、たくさんの皆様に足を運んで頂き、大盛況とともに2017年4月28日（金）に幕を閉じました。ご来場頂いた皆様、ご協力頂いた皆様、大変有難うございました。なお、NY育英学園ホームページ上において、これまでのものと合わせて、今回のコンクール受賞作品のすべてをご覧いただけます。素晴らしい力作の数々を、ぜひご鑑賞下さい。

さらに、5月以降は、ニュージャージー本校キャンパス「育英ギャラリー」において、受賞作品の展示（絵画のみ）も行なっております。よかったら、お知り合いの方々もお誘い頂き、ぜひ見にいらしてください。

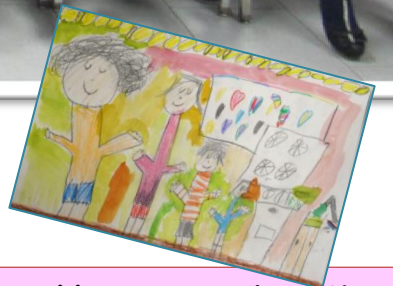


作文部門グランプリ
「平山郁夫大賞」
恩田 真弥さん
（ぐんま国際アカデミー）



私は、学校の先生の勧めで、この作文コンクールのことを初めて知りました。そして、この作文コンクールの、「『ありがとう』と言いたい」という作文テーマが、愛する祖父との思い出をなんらかの形で残しておきたいと思っていた私の気持ちとぴったりあっており、是非このチャンスを生かし、祖父との思い出を綴りたく、応募しました。祖父からもらった、たくさんの愛情や励ましがあったからこそ、頑張っている今の自分がいるような気がします。祖父には、感謝の気持ちをいくつ言い尽くそうとしても言い尽くせないのに、生前、祖父に「ありがとう」と伝えることができなかった事を、この作文を通して表現することができ、本当に良かったです。

さらに、今回このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変驚いております。本当に、ありがとうございました。いち早く、私は祖父のお墓参りに行き、祖父との思い出についての作文が受賞したことを、祖父に報告しました。きっと、天国で私を見守ってくれているであろう祖父は生前同様、「まやは偉い！自慢の孫だ！」と私を褒めてくれていることでしょう。そんなことを思うと、何だか私は温かい気持ちになり、祖父のぬくもりを感じました。



第4回コンクールは、
2019年度開催を予定しております。
次回もたくさんのご応募をお待ちしております。

（募集要項発表予定時期）
2019年4月ごろ

（応募予定期間）
2019年6月1日～2019年10月31日

※ NY 育英学園 HP 上でも
募集要項は発表されます。

トリエンナーレ自由の女神
アート作文コンクール事務局

場 所：8 West Bayview Avenue,
Englewood Cliffs, N J07632, USA
電 話：(201)947-4832
E-mail：Triennale.nyikuei@gmail.com

お問い合わせ：トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクール担当：牧野 佳代子

親子クラス特集 りんごラーニングセンター

月2回開催！ 親子で遊ぼう 週末体験イベント

ご好評につき、親子体験イベントを、今年度第1学期は月に2回実施することになりました。土曜日なので、お母さんだけでなく、お父さんも一緒に親子で参加できます。日本の伝統行事にちなんだ活動のほか、子どもと一緒にいろんな活動をして楽しい思い出を作りませんか？ イベントの後、子ども達がフリータイムで遊んでいる間、ベテランの保育士たちが子育てのご相談や質問に応じます。ぜひお友達をお誘いになってご参加下さい。



【日程】

主な対象：1～2歳

5/6 （子どもの日②）

6/10 （親子ヨガ）

主な対象：2～2歳半

5/20 （親子体操）

6/17 （初夏の集い）

※いずれの日も、1歳から2歳半のお子さままでご参加いただけます。

【時 間】午前 9:30～11:00 【対 象】1～2歳児半と保護者
【場 所】りんごラーニングセンター#104 *ビルの裏に大きな駐車場があります。
【参加費】\$20 ※2人目以降のお子様は、1人\$10

平日も随時体験・見学実施中！



NY 育英学園主催 第3回トリエンナーレ自由の女神



表彰式

NY 育英学園主催第3回トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクールの表彰式が、2017年3月19日（日曜日）に、NY 日系人会において開催されました。式には在 NY 日本国総領事館領事の石塚勇人様をはじめ、日本や遠方から駆け付けた受賞者やそのご家族なども含めて、たくさんのご来賓の皆様にご出席いただき、総勢100名を超える賑わいでした。

今回のコンクールでは、「『ありがとう』と言いたい」というテーマのもと、アメリカ国内のみならず、日本、シンガポール、ドイツ、ベトナム、スイスなど、世界中から700点にのぼる応募を頂きました。厳正な審査の結果、右の皆様が受賞いたしました。皆様、おめでとうございました。



石塚勇人領事より表彰を受ける
笠井勇汰さん(作文部門中学・高校の部金賞)

「作文部門受賞者」

	賞	名前 (学年)	タイトル
	グランプリ	平山郁夫大賞 おんだ まや 恩田 真弥 (高2)	「私の心に生きる祖父」
小学校 低学年の部 (1・2年)	金賞	おかだ そら 岡田 空 (小1)	「ママありがとう」
	銀賞	こばやし りひと 小林 利史 (小1)	「ありがとう、クック」
	銅賞	たなか いっせい 田中 一成 (小1)	「ぼくのともだち」
		おおしま こなつ 大嶋 心夏 (小2)	「新しいともだちとの出会い」
小学校 中学年の部 (3・4年)	金賞	なかじま りおん 中島 凜音 (小4)	「奇せきの命」
	銀賞	すがはら ゆいか 菅原 ルナ (小3)	「おじいちゃんへ」
	銅賞	ほりこ けいた 堀古 慶太 (小3)	「ありがとう」
小学校 高学年の部 (5・6年)	金賞	いしはら じゅりあん 石ヶ原 ジュリアン (小5)	「スピーチ」
	銀賞	なかはら ゆいか 中原 唯華 (小5)	「ありがとう、りゅうき」
	銅賞	にしわか きょうか 西脇 京花 (小6)	「アメリカにありがとう」
		ふなびき かなえ 船引 香苗 (小6)	「ありがとう本」
中学・高校 の部	金賞	かさい ゆうた 笠井 勇汰 (中3)	「生きるとは何か?」
		おかもと のぞむ 岡本 希望 (中1)	「靴磨きの少年」
	銀賞	(該当者なし)	
	銅賞	おかもと まこと 岡本 真実 (高2)	「アンティグアの少女」
		特別賞	
		ヒューブリー エミリー (小1)	「わたしのねこ」
		ふるさわ なな 古澤 奈々 (中2)	「伝えられなかったけれども」

「絵画部門受賞者」

	賞	名前	タイトル
	グランプリ	平山郁夫大賞 ドネリー 瀬夏 (年中)	「やさしいかぞくになって、ありがとう」
幼稚園児の部	金賞	ローズ ジェイムン (年長)	「おじさん きんぎょ2ひきくれてありがとう」
	銀賞	ゴールド 藍里 (年長)	「まやちゃん、ロッキー ありがとう」
	銅賞	鈴木 美璃 (年少)	「みんな大好き、ありがとう」
小学校 低学年の部 (1・2年)	金賞	鈴木 健斗 (小1)	「ゆうとくん ありがとう」
	銀賞	サマー 友哉 (小1)	「おかあさん、ありがとう」
	銅賞	いしはら ななみ 石原 菜々美 (小1)	「ありがとう かぞく」
		こもだ けいか 小毛田 慶花 (小4)	「祝ってくれてありがとう!」
小学校 中学年の部 (3・4年)	銀賞	さとう ゆうま 佐藤 雄真 (小3)	「ゆうま と まさはる」
	銅賞	いしだ けい 石田 椰月 (小4)	「Nice People/やさしい人々」
小学校 高学年の部 (5・6年)	金賞	たかはし いぶき 高橋 勇吹 (小6)	「I need more hands (手をもっとほしい)」
	銀賞	ハーディー ジェイシー (小5)	「The Best Sister In The World 世界一のいもうと」
	銅賞	みずたに あいさ 水谷 愛彩 (小5)	「自然、ありがとう!!」
		おかもと かおる (中3)	「直接伝えられない感謝」
中学・高校 の部	金賞	スィンクイツ 真彩 (中3)	「二人の私」
	銅賞	せん 純 (高1)	「癒し 〜healing〜」
特別賞		モイ栗田 ケネス (年少)	「ありがとう」
		デ・カルバーロ ソフィア (年長)	「おともだち だいすき」
		ずし 美早紀 (小1)	「おはなからげんきをもらったよ、ありがとう」
		バーダ 紀香 (小2)	「DREAM」
		ほしの 彩姫 (小3)	「おばあちゃんにありがとうを言いたい」
		きたじま りひと 北島 理仁 (小3)	「ドイツの木の音はいいな」
		かみ あおは 垣見 蒼葉 (小4)	「妹と自ぜんありがとう」
		いしがはら じゅりあん (小5)	「色んな場所」
		はやし こうへい 林 航平 (小6)	「My Family ぼくの家族」
		つばかわ たけひろ 坪川 剛大 (中1)	「ありがとう」
		なかむら はるか 中村 春佳 (中2)	「お父さんお母さん 妹と会わせてくれてありがとう。」
		しんぼ ゆうき 新保 結希 (高1)	「生まれてきたことにありがとう」

(※敬称略／学年は2016年度受賞時の日本式学齢に基づく)

親子クラス特集 フレンズアカデミー

フレンズアカデミー

親子教室「ひよこ組」

親子教室「ひよこ組」には、多様なバックグラウンドを持つ子ども達と保護者が参加しています。国際結婚、駐在員として渡米した方、母国語以外の言語として日本語を学ばせたい方など、様々です。こうした背景の中で、参加している保護者に共通している強い思いは「日本の文化やその良さを幼児期から学ばせたい」ということです。その実現のため、私たちは日々、研鑽を重ねながら、カリキュラムや保育計画を作成しています。

ここでは具体的な活動例をいくつか紹介したいと思います。

製作活動

- 靴下を使った雪だるま人形作り（1月）
- カップで作るひな人形（3月）
- 七夕の笹作り（7月）

日本の歌

- 「お正月の歌」（1月）
- 「ひな祭りの歌」（3月）
- 「こいのぼり」（5月）

また、ゆったりとした雰囲気の中、子育て中の保護者同士の情報共有の場、親子同市の交流の場となっています。



親子クラス特集 りんごラーニングセンター

プレイグループ親子教室

プレイグループ親子教室

- ひよこ組**：親子一緒クラス

[対象] 1歳以上 [曜日] 火・木曜
[時間] 9:40-11:10

- うさぎ組**：親子分離クラス

[対象] 2～2歳半 [曜日] 水・金曜
[時間] 9:40-11:10

場 所：2460 Lemoine Ave., Fort Lee, NJ 07024
電 話：(201)947-4707
E-mail：ringo.nyikuei@gmail.com

りんごラーニングセンターの「親子教室」は乳幼児対象プレイグループです。他の親子と一緒に遊びを楽しむことで、親子関係の安定をサポートします。クラスでは、日本の歌、手遊び、伝統行事を取り入れたプログラムで、少しずつ日本の文化に親しんでいきます

クラスは「お母さん・お父さんと一緒」のクラス（ひよこ組）から「少しずつ一人でできる」クラス（うさぎ組）に進み、お子様の自立心が養われます。



主なクラスの流れ

10：00	登園
10：00～10：30	自由遊び
10：30～11：00	サークルタイム、歌 ダンス、手遊び
11：00～11：20	製作活動
11：20～11：25	おやつ
11：30	降園

お問い合わせ：フレンズアカデミーディレクター／河野 茂

うさぎ組（親子分離クラス）



お母さんと少しの時間離れて、お友達や保育者と一緒に活動します。お母さんと離れても楽しんで過ごせるように、少しずつ練習するクラスです。保護者の方は、保育室の隣のウェイティングルームでお待ちいただきます。最初は不安で泣いてしまうお子さんもいますから、慣れるまではお母さんと一緒でも、もちろんOKです。



親子教室「ひよこ組」基本情報

- 日時：月曜日～木曜日
（週1回より参加ができます）
10：00～11：30
- 対象：1歳以上3歳未満
（保護者同伴）
- 定員：1日7組程度

担任からのメッセージ

最初は、初めて聞く歌に戸惑う子ども達ですが、お友だちや保護者と一緒に何度も繰り返すうちに歌詞や振りを覚え、楽しそうに大きな声で歌えるようになります。初めて、返事や名前が自分で言えた時にはお母さん、お父さんから歓声が上がります。気軽に子育てなどの情報交換をしながら、保護者同士の交流もできる和やかなクラス作りを目指しています。

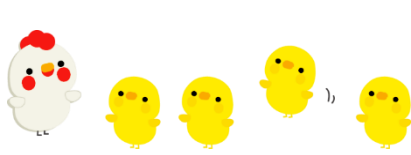


お問い合わせ先

場 所：310 West 103rd St, New York, NY 10025
電 話：(212)935-8535
E-mail：Friends.nyikuei@gmail.com

お問い合わせ：りんごラーニングセンターマネージャー／半場 綾子

ひよこ組（親子一緒クラス）



プレイグループのデビュークラスです。初めての場所、初めてのお友達の中で、お母さんと一緒に歌をうたったり、体を動かしたり、クラフトをします。親子と一緒に楽しむことによりお子様の情緒が安定し、たくさんのことに挑戦しようとする気持ちも育っていきます。



JAPANESE CHILDREN'S SOCIETY のご案内

New Jersey キャンパス (イングルウッド・クリフス)

8 West Bayview Avenue, Englewood Cliffs, NJ 07632
Phone: (201)947-4832 Fax: (201)944-3680
E-mail: Info.nyikuei@gmail.com

全日制デイスクール 幼児部／小学部

E-mail: dayschool.nyikuei@gmail.com

幼小一貫全日制教育

日本の文部科学省のカリキュラム準拠+ESL&現地校英語

(幼児部 2017年度より) NY 育英プリ・クロスメンソッド

毎日の英語の時間+金曜日のバイリンガルの時間(年長・年中)
英語でのアートの時間

(小学部) NY 育英クロスメンソッド

毎日1時間の英語+金曜日1日英語=週10コマの英語
1週間の1/3が英語学習
充実の7段階の習熟度別の英語クラス編成
ネイティブレベルは現地校のランゲージアーツの教科書を使用

■幼児部

年少組、年中組、年長組、
ゆり組(ウェーティング特設クラス)

■小学部 小学1年～小学6年

■様々な放課後クラブ活動

(幼・小) サッカークラブ、水泳クラブ、
ダブルダッチクラブ、ダンスクラブ、体操クラブ
(幼児部のみ) ボール遊び
(小学部のみ) 野球クラブ、ボードゲームクラブ

アフタースクール

E-mail: afterNJ.nyikuei@gmail.com

幼児の教室(つばめクラス)
小学生の国語・算数教室
ESL(年少～小学6年)
ピアノ教室 空手教室 合唱部
書道教室 ダブルダッチ(チーム)
幼児おんがく教室(年少～年長)
いろはにほんご教室

→E-mail: IROHA.nyikuei@gmail.com

日曜プログラム

育英サタデースクールニュージャージー校

E-mail: satNJ.nyikuei@gmail.com

幼児部(年中、年長)
小学部(小学1年～小学6年)
・野球部、サッカー部、卓球部、室内球技部、アート部、
ダンス部、書道部
中学部(中学1年～中学3年)
・中学部活動、書道部
高校国語・数学コース(高校1年生・高校2年生)

育英サマーキャンプ

E-mail: SummerCamp.nyikuei@gmail.com

サマーキャンプ(宿泊)
サマーデイキャンプ
サマー野球教室
サマーいろはにほんご教室

育英サンデースクール

幼児部(年中、年長)
小学部(小学1年～小学6年)

E-mail: SunNJ.nyikuei@gmail.com

日曜プログラム

日曜ピアノ教室
日曜バイオリン教室
日曜野球教室(春・秋)
いろはにほんご教室
日曜ダブルダッチ
日曜寺子屋アカデミー
(書道、そろばん、理科実験、剣道&アート)
→E-mail: terakoya.nyikuei@gmail.com

育英スキーキャンプ

E-mail: Ski.nyikuei@gmail.com

日帰りスキー教室(12月～2月)
宿泊スキーキャンプ(12月、2月)

マンハッタンからバスをご利用の場合

★Port Authority Bus Terminal から
NJ Transit →156番
Coach USA →9 T.A. 番
★George Washington Bridge Bus Terminal から
NJ Transit →186番
Coach USA →9A 番
詳細は学園ホームページをご覧ください。



フレンズアカデミー (アッパーウエスト)

全日制プリスクール (NY州認可)

たんぽぽ幼稚園

E-mail: PreschoolFriends.nyikuei@gmail.com

■幼児部

年少組、年中組、年長組

週日クラス(月曜～金曜日)

E-mail: Friends.nyikuei@gmail.com

■親子教室ひよこ組(およそ1歳～3歳未満)

■幼児教室いちご組(3歳以上の未就学児)

アフタースクール

■いろはにほんご教室

日本語基礎教室(3歳～5歳)、国語教室(小学1年～中学1年)

■国語算数教室(小学1年～5年)

■中学数学教室(中学1年～3年)

■高校国語教室(高1、高2)

■英検試験対策講座(1次・2次)

■プライベートチュータリング(小学1年～高校生)

■プライベートレッスン(大人)

■書道教室(4歳～大人)

■音楽教室<ピアノ・バイオリン>(3歳～大人)

■リトミッククラブ(3歳～5歳)

■うんどうクラブ(3歳～5歳)

310 W.103rd Street, New York, NY 10025
Phone: (212)935-8535 Fax: (212)813-0122

ウィークエンドスクール(土・日)

E-mail: WeekendFriends.nyikuei@gmail.com

■幼児クラス(3歳～年長児)

■いろはにほんご教室

日本語教室(小学生以上)、国語教室(小学生以上)

■国語算数教室(小学1年～4年)

※6年生まで年次開校

■中学生国語教室(中学1年～3年)

■高校国語教室(高1、高2)

■音楽教室<ピアノ・バイオリン>(3歳～大人)



その他のイベント

■季節プログラム

春→親子スプリングスクール
夏→親子サマー、幼児サマー、小学生サマー
冬→幼児ウィンタースクール

■日ようびは日本語であそぼう(2歳半～年長児)

■子育て支援広場「ぼっぼ」(未就園のお子さま)

育英サタデースクール マンハッタン校

幼児部(年中、年長)

・ベビーシッター

小学部(小学1年～小学6年)

・合唱部、リズムダンス部、書写部、自習室

中学部(中学1年～中学3年)

・書写部、自習室、アドバンスクラス



Location1: Friends Seminary
Location2: Grace Church School
Phone: (201)947-4832
※土曜日のみ: (201)637-3927
(201)449-4501

Fax: (201)944-3680

E-mail:

satM.nyikuei@gmail.com

週日・週末ともに
マンハッタン内で様々な日本語の
プログラムが用意されています。

育英ポートワシントン校 (ロングアイランド)

■育英サタデースクール ポートワシントン校

幼児部(年中、年長)

小学部(小学1年～小学6年)

・書道教室、ダブルダッチクラブ

総合体育教室、音楽部

中学部(中学1年～中学3年)

・アドバンスクラス国語・数学、

書道教室、音楽部

・ダブルダッチクラブ

高等部(高校1年～高校2年)

・書道教室、ダブルダッチクラブ、

音楽部

マンハッタンから
ロングアイランド鉄道
(LIRR TRAIN)
をご利用の場合
NEW YORK PENN STATION
から
PORT WASHINGTON bound
にて終点下車。
(PORT WASHINGTON
STATION)
※所要時間約 50分



Ikuei Saturday School of Port Washington
Location: Carrie Palmer Weber
Middle School

Port Washington Office

After School

8 Maple Street #6,
Port Washington, NY 11050

Phone: (516)767-3139

土曜日のみ: (516)455-3871

(201)362-5678

Fax: (516)767-2753

E-mail (サタデー):

satPW.nyikuei@gmail.com

E-mail (アフター):

afterPW.nyikuei@gmail.com

■平日アフタースクール

特別国語教室、英検対策講座、
いろはにほんご教室(作文教室、土曜国語クラス)



2017年度 NJ キャンパス全日制オープンハウス

第1学期

5月9日(火) 保育参観日(年長8:40～11:20)
5月10日(水) 保育参観日(年中8:40～11:20)
5月11日(木) 保育参観日(年少8:40～11:20)

5月13日(土) 小学部運動会(9:30～2:45 全日制・サタデースクール合同)
*予備日5月14日 場所: Winton White Stadium: Durie Ave. Englewood, NJ 07631

5月16日(火) 学園見学ツアー(幼児部・小学部ともに9:10～12:20)
5月19日(金) 学園見学ツアー(幼児部10:30～11:15・小学部9:10～12:20)
6月4日(日) 日曜参観日(幼児部9:00～10:25・小学部10:40～12:20)

第2学期

9月14日(木) オープンハウス(小学部9:10～3:10)
9月15日(金) オープンハウス(英語の日)(小学部9:10～2:25)
9月17日(日) 幼児部運動会(10:00～1:30)
*予備日9月24日
10月3日(火) 保育参観日(年少8:40～11:20)
10月4日(水) 保育参観日(年長8:40～11:20)
10月5日(木) 保育参観日(年中8:40～11:20)
11月18日(土) 学園祭(幼児部9:00～10:30・小学部10:30～3:30)
場所: North Cliff School
11月29日(水) 学園見学ツアー(幼児部・小学部ともに9:10～12:20)
12月1日(金) 学園見学ツアー(幼児部10:30～11:15・小学部9:10～12:20)

第3学期

1月16日(火) 保育参観日(年長8:40～11:20)
1月17日(水) 保育参観日(年中8:40～11:20)
1月18日(木) スケートオープンハウスイベント(小学部9:10～3:10)
1月23日(火) 保育参観日(年少8:40～11:20)

※(バスマーク)がある日は無料の送迎バスをご用意しております。
※日程や場所は変更される場合がございます。

～NY 育英学園 NJ キャンパス全日制 体験入園のススメ～

NY 育英学園 NJ キャンパス全日制では、左記のオープンハウスのほかに、全日制部門への編入をご考慮されています。実際に園児・児童に学園の保育活動や授業に参加していただき、安心して編入していただけることを目的として、随時体験入園を行っています。

対象は、NJ キャンパス全日制部門の対象年齢者(3歳児年少～小学校6年生まで)で、期間は、1日～最長5日間まで参加していただくことが可能となっています。また、お子様の体験入園の様子を参観いただきながら、園内の様子をご見学いただくことの出来る見学ツアーや、保育者や教員、英語科スタッフとのQ&Aの時間も設けています。また、スクールバスもバスルート内にあるポイントでバスの定員に空きがあればご利用いただくことが可能です(料金別途)。

日程に関しては、行事との関係もありますので、学園事務局までご相談下さい。

問い合わせ先: (201)947-4832 または
dayschool.nyikuei@gmail.com まで

お問い合わせ/事務主任: 園田 雅香